支局長からの手紙

石橋を訪ね歩いて

宮崎市の会社員、贄田岳和さん(60)が、全国の石橋探訪を始めて10年になる。「出動」回数は591回、車の走行距離は26万キロに及ぶ。

きっかけは2003年、大分県院内町（現宇佐市）での石橋巡り。「九州には1581基の石橋がある」と書かれた当時の案内板を見て、全部回ってみようと決めた。

週末になると、カメラにロープ、長靴、自転車などを載せた車で目的地に向かう。なるべく一度も通ったことのない道を選び、石橋を探す。見つけたら計測し、写真を撮る。橋を下から見るためロープで崖を下りたものの、上れなくなって困ったり、カメラごと川に落ちたりしたこともある。

そうしてホームページ「石橋・眼鏡橋・太鼓橋・石造アーチ橋」に記録を載せる。レンガ造りの橋なども含め、その数は23都府県の6483基に達し、大分の案内板をはるかに超えた。新発見の石造アーチ橋も110基。昨年6月には、息子の結婚に向けた両家の顔合わせで上京した折、千葉県南房総市まで足を延ばして1基を見つけた。

「探し尽くしたと思っていても、たまに出てくる。信じられないという気持ち。それがあるからやめられない」

数が特に多い九州に限らず、全国の石橋は道路改良などのため姿を消しつつある。「昔の人が造った文化遺産を残したい」。その思いはなかなかかなわないが、希望を捨ててはいない。

「例えばローマでは1000年以上前の石橋が今も使われている。石橋はコンクリートと違い、石の寿命だけもつ。まさにエコ・アーチです」。いずれ見直される時が来る、と信じている。

贄田さんが所属する「日本の石橋を守る会」の第34回総会が20、21両日、日南市の南郷プリンスホテルで開かれる。昨夏の九州北部豪雨での石橋の被害報告などがある。詳しくは通潤橋史料館0967・72・3360。

宮崎支局長　池田亨